

具体的に問題を作成したり、体験的な活動の中で生徒同士の協同学習へと発展したりしていきました。ほとんどの生徒が学習課題を達成するとともに大きな成就感を得ていました。

指導内容の厳選に当たっては、児童生徒の実態によって個別の課題による対応も必要です。学習経験や能力に合わせて様々な創意工夫が大切になります。

#### 四 個を生かす教育の充実

##### ④ 個別の指導計画の作成

障害の重度・重複化、多様化に

対応するためには、教師間の連携

による指導や指導方法の改善を行

うなど指導体制の工夫を行い、個

に応じた教育をより一層進めるこ

とが重要になります。今回、障害

の重度・重複化への対応として養

護・訓練の名称が「自立活動」に

変わり、目標及び内容が整理され

るとともに個別の指導計画の作成

が規定されました。また、同様に

重複障害のある児童生徒の指導を

行う場合にも個別の指導計画の作

成が新たに示されました。

知的障害養護学校においては、

領域と教科を合わせた指導として

「生活単元学習」などが一齊指

導が新たに示されました。

の形態で伝統的に行なってきてい

ます。しかし、一人一人の児童生

徒の興味・関心を生かした学習活

動の展開や指導のねらいが、能力

差のある児童生徒の集団学習場面

では希薄になる傾向

が少なくありません

でした。そういう意

味でも、自立活動以

外の教科・領域にお

いても、多様な教育

ニーズに対応し、一

貫した指導を行うた

めには、個別の指導

計画の作成が必要と

なります。学校全体

としてどのような観

点で作成したらよ

いのか検討しそれぞれ組

んでほしいと思いま

す。特殊学級につい

ても同様です。

#### 五 地域に開かれた学校づくり

様々な教育的課題が山積する中

で、従来のように学校だけですべ

ての問題を解決することが困難に

なってきました。そのため、P.T

Aや地域社会との連携を今まで以

上に密にするとともに、学校の施

設や教育機能を活用して地域の教

育相談センターとしての機能を果

たしていくこと、さらには学校の

教育活動に地域社会の人材や施設

など社会的資源を積極的に活用す

ることが必要になってしまいます。

盲・聾・養護学校は、それぞれの

地域においては、地域の小・中学

校と連携を図ったり、特殊教育の

中核的な機能として積極的にその

専門的な機能を生かして地域社会

に貢献したりすることが、地域住

民の理解・啓発を促進し、障害の

ある児童生徒の社会参加・自立を

推進する上で重要になつてきま

す。今回の改訂では、「特色ある学

校づくり」が示されていますが、

既に取り組んでいる県内の学校の

例を紹介します。

聾学校では、以前から地域住民

を対象とした手話講座を開講した

り、演劇の公開などを行つたりして

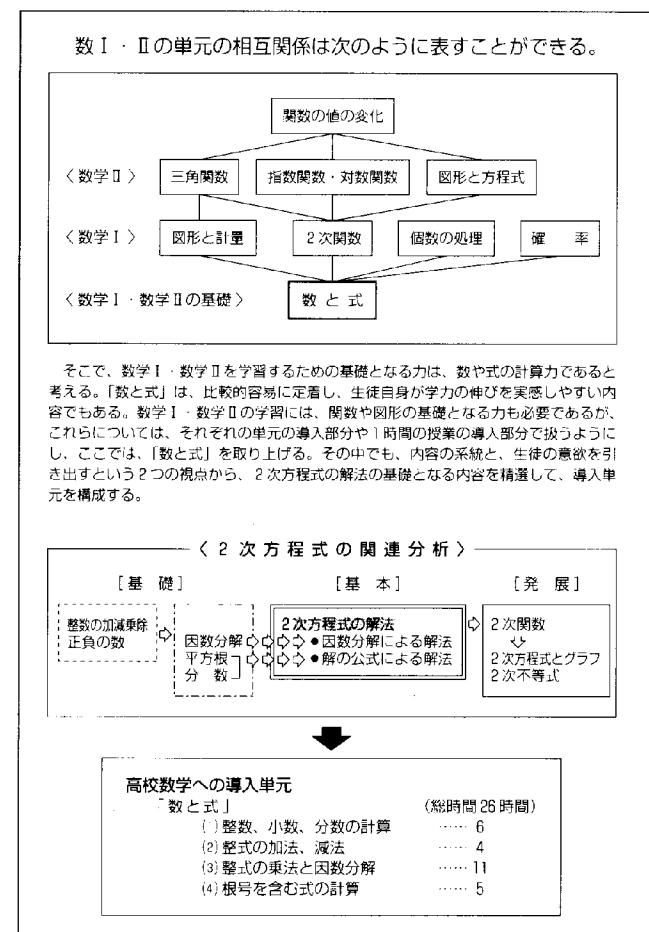


図2 数学の単元構成の工夫